

## 本校が目指す5年後の姿（具体的な目標）

### 1 学校の現状や課題

- (1) 生徒の進路希望の多様化と学力の多層化に対応する学習指導の確立
- (2) Will Project の検証と高大接続改革に対応する新たなカリキュラムの設計
- (3) 地域のセンタースクールとして将来のリーダーとなるべき人材の育成

### 2 学校を取り巻く将来の状況の予測

- (1) 中学校卒業生数の減少に伴う学校規模の縮小  
※能代山本地区内の卒業生の見通し 674人（H29.3月）→ 585人（H34.3月）
- (2) 第七次秋田県高等学校総合整備計画による能代山本地区の高校再編整備
- (3) 人口減少が加速する中、大学卒業後の若者定住に向けた行政と高校との連携

### 3 目指す方向性や学校像

～ Will Project の基本的な考え方を受け継ぎつつ  
主体的探究心と協働的解決力を備えた  
次世代リーダーの育成 ～

<育成する生徒像>

- (1) 校訓「至誠力行」の精神の下、高い志をもち不断に自己を向上させる生徒
- (2) 学力の3要素をバランス良く習得し、地域の将来を担う自覚をもった生徒
- (3) 他者に敬意を払い、社会集団において協働しながら積極的に役割を果たす生徒

<重点指導5項目>

- (1) 基本的生活習慣の確立
- (2) 学力向上に向けた指導改善
- (3) 探究活動による課題解決能力の育成
- (4) ICTの積極的活用
- (5) 文武両道に向けた支援

### 4 5年間を通しての具体的な目標

分野	指 標	27年度	28年度	目 標
進路	国公立大進学者数	88名	92名	100名以上
	国・私立難関大学進学者 (医学部医学科を含む)	7名	6名	15名以上
部活動	部活動加入率	87.3%	91.1%	90%以上
	運動部・文化部 全国大会出場	7組	7組	10組以上

## 具体的な取組等

### (1) 基本的な生活習慣の確立

- ・すべての生徒と職員が参加するスクールマナー集会で、目標である「いつでも面接試験に臨める態度」についての共通理解を図るとともに、モラルを育む。
- ・システム手帳を全生徒に携行させ、スケジュールや日々の生活を記録させることで、時間や目標を意識して主体的に基本的な生活習慣を確立するようにする。

### (2) 学力向上に向けた指導改善

- ・教育課程を見直し、50分×7コマ授業を導入する。
- ・主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点からの授業改善の推進や、進路別学習指導の一層の充実を図る。
- ・外部講師による授業改善研修や、学び合い活動の先進校視察を実施する。
- ・8：00からの朝学習で基礎学力向上と成績層別指導の強化を図る。
- ・長期休業中の課外補習を1・2年生は20日程度、3年生は30日程度実施し、学力向上を図る。
- ・3年生に対する小論文・面接指導を全職員で行う。
- ・各学年で進路検討会や模試分析会を行い、生徒の学習状況の把握と速やかな学習指導の改善に努める。
- ・生徒面談を充実させ、学習を含めた高校生活全般の支援を行う。

### (3) 探究活動による課題解決能力の育成

- ・総合的な学習の時間を活用し、1年次にグループ別探究活動、2年次に個別探究活動を実施する。
- ・2年生全員を対象に、探究活動や将来目標を踏まえた実習先でのインターンシップを実施する。
- ・秋田県「探究活動等実践モデル校」の指定を受け、地域との連携を図りながら、さまざまな探究活動や成果の発表を行う。
- ・研修会参加や先進校視察を実施し、計画実施に反映する。
- ・大学教員や地域行政の担当者を招聘した課題研究のための講座を開き、探究活動を進めるに当たっての専門的な知識や技能を習得する。
- ・他のモデル指定校との情報交換を密にし、より良い実践と指導改善に繋げる。

### (4) ICTの積極的活用

- ・クラウドサービス「classi」を導入し、学習支援や成績管理・連絡調整やグループ別活動等への積極的な活用を図る。
- ・ICT環境を整備し、ハードとソフトの両面から使用環境の充実を図る。
- ・教科指導への活用に関する研修会を開き、ICTを活用した学習法を研究する。

### (5) 文武両道に向けた支援

- ・部活動と学習活動の相乗効果を期待し、目標設定や活動方針の可視化を行う。
- ・休養日の設定や部活動時間の管理を徹底し、家庭学習時間の確保を図る。
- ・部活動指導員の制度を活用して専門的指導を強化し、競技力の向上を図る。